

題でなければならぬ。空間が若し一つの存在者であるならば、事物が空間に於てあるといふことも例へばプラトンの「パルメニデス」第一部に於て吟味せられたやうに、分有に關する多くの難問を惹起するのみならず、それが何故に事物の存在を可能ならしむるかについても不可能の問題を提起するものといはねばならぬ。しかるにプラトンのコーラはたとへアリストテレスの質料と同一ではないにしても尙質料的であり、或は少くとも存在的であつた。そしてそれがさうである限り遂にこれらの難關の前にたまたまざるを得ぬであらう。西田哲學の場所

はこれに反して無の場所であり、絶對無の原理である。場所が存在の根柢をなすのは、存在が他の何ものによつてもなく、それ自らによつて、如何なる他のものに於てもなく、それ自らの中に存在することをあらはしてゐる。個體が場所に於てあることは個物が眞にそれ自らによつて存在することを明かにしてゐる。西田哲學の場所

はそれ故に存在が何によつてそれ自ら存在であり得るかを明かにしたものであつた。そしてそれがまた西田哲學をしてプラトンやアリストテレスの立場からも區別せしめる所以のトポスであつた。従つて西田哲學に於て「場所」を論ずることはこの哲學の根本思想の一つを明

かにするとともにそれが他の種々なる哲學から區別せらるべき場所（トポス）を明かにする所以であるといはねばならない。

彙報

哲學會公開講演會

十月二十七日（土） 午後一時半 法經第四教室

京都帝國大學教授

矢田部達郎氏

精神生活に於ける思考
活動の位置

第三高等學校教授

相原稔作氏

課せられてゐるもの

「哲學研究」發行遅延ノ爲紙上豫告ヲ中止セリ

編輯後記

本二月號は西田幾多郎博士追悼の特別號とした。

「歴史哲學ニツイテ」は昭和十六年一月廿三日の宮中御講書
始に於ける御進講の草稿である。

「日記抄」は博士の残された日記中、明治三十年、三十一年、
三十二年の分を西谷委員が抄した、編者の説明は括弧に入れ
た。句讀點も編者が適當に加へたものである。

狩野博士の「西田君の憶ひ出」は上野、澤瀉兩委員が博士の
談話を筆記し、後に博士の御訂正を乞ふたものである。

西田哲學に關する論文としては、山内博士のほかに務臺理作
博士からも頂く筈になつてゐたが、御病氣の爲、本號に載せ得
なかつたことは残念である。

(澤瀉)

前 目 次

獨逸神祕主義と 獨逸哲學	文學博士 西谷啓治
藝術的世界の形成と 發生形態 — デイルタイに於ける感情構造と原始藝術 —	文學士 余田民夫
細胞の起源……	理學博士 桑田義備